



### 学校教育目標

- 自立** 志を高く掲げ、自立して“いきる”力を身につけよう【“いきる”力になる学力と礼儀正しさ】
- 貢献** 豊かな人間性を磨き、社会に貢献する道を切り拓こう【身近な社会（学級、学校、地域）で役に立つ】
- 創造** たくましく心身を鍛え、希望に満ちた未来を創造しよう【仲間と共に活動を創りあげる喜び】

### 何ができるようになるか〈学校教育の基本〉

SEISHO  
PRIDE

- 【自立】さわやかな挨拶・自ら進んで学習
- 【貢献】活力ある生徒会活動・いじめの根絶
- 【創造】響き合う合唱・成長し合える仲間

自主性・主体性の育成

評価（2回）に基づく  
検証改善  
⇒教育活動の質の向上  
⇒学習の効果の最大化

### 生徒の発達をどのように支援するか

- ・生徒と向き合う時間を確保し、多面的・多角的な生徒理解に努める
- ・職員間で情報共有を行い、生徒1人1人の教育的ニーズを把握し、協働して支援に当たる（個別に支援計画、指導計画に基づいた支援体制の構築、通級指導の充実）

### 何を学ぶか〈教育課程の編成〉

- コミュニケーション力  
（言語能力、情報活用能力）
- 問題発見・解決能力
- 協働する力

### どのように学ぶか〈教育課程の実施〉

昨年度のコロナ禍における学校運営における成果と課題を踏まえ、教育活動を力強く推進する

- ①教育の効果の最大化ー「自主性・主体性」を核としたカリマネによる教育課程の改善と実施
- ②授業改善の徹底（ICTの活用と個別最適な学びと協働的な学び）
- ③目的的な特別活動の推進（生徒指導の3機能の活用・発揮）
- ④新しい生活様式を踏まえた体育的行事の推進

### 生徒の実態

- 明るく元気なあいさつが定着し、さわやかな校風が確立されている。
- 基礎的・基本的な学習事項がしっかりと定着している。活用発揮することを通して問題を発見し、解決していく力の育成が求められる。
- 教師との信頼関係を基盤として諸活動を通して、自尊感情が育まれている。部活動への取組も積極的で、各種目において上位入賞を果たしている。
- ▲様々な要素が複合した“居づらさ”が不登校で前景化している。個に応じた支援が必要である。

### 実施するために何が必要か〈指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働〉

- 学校課題を解決する校内研修の推進（タブレットの活用、学びの改善につながる評価の実施）
- 校区の課題を解決する小中の連携・一貫した教育活動の推進
- 関係機関との連携・協働による生徒・家庭への支援（不登校の未然防止と早期解決）
- 北海道アクションプランの目標に迫る働き方改革の推進
  - ・目標を共有しベクトルを揃えた組織的な取組による効果的で効率的な学校運営の推進
  - ・「苫小牧市部活動ガイドライン」の完全実施
  - ・目標と手段の視点からの「やめる・減らす・変える」の発想での業務の見直し

### 安全・安心を守る

- 危機管理マニュアルの見直しと実践的な活用
- 学校いじめ防止基本方針に基づく対応の推進
- 教職員研修資料「SOSの出し方に関する教育」を活用した自殺予防教育の推進
- 服務規律の遵守（体罰の禁止、個人情報保護・管理の徹底、交通違反・事故の防止）

### 地域とともにある学校づくり

- 教育活動の積極的な情報発信
- 地域活動局を中心とした地域貢献
- CSを見据えた学校評議員制度の活用と学校関係評価の実施
- 地域の人材や教育環境の積極的な活用